

一般車

岐阜駅前 で会える 丸窓電車

1926(大正15)年に5両が製造された美濃電気軌道の車両。美濃町線など岐阜県の600V路線を2005(平成17)年の路線廃止まで走り続けた。大正時代に流行した丸窓を備えていたことから「丸窓電車」の愛称で呼ばれ、現在は岐阜駅前などに保存されている。



6000系の改良版

オイルショックなどが引き金となって増大した通勤輸送需要に対応するため、1976(昭和51)年に登場した現役最古参の通勤型車両。通勤ラッシュに対応するべく、全長19メートル、片側3扉を採用。名鉄における通勤型車両の標準仕様となっている。量産の過程でデザインや仕様が変更され、大きく分けて4タイプが存在。また、前面デザインを一新し省エネ性能に優れた6500系、6500系の2両編成版である6800系などのバリエーションが存在する。



でも郊外路線
活躍中



地下鉄
乗り入れに
対応!!

1979(昭和54)年の名鉄豊田線開業及び名古屋市営地下鉄鶴舞線との直通運転開始に合わせて登場。全長20メートル、オールロングシート、片側4扉という仕様を名鉄として初めて採用した。走行機器に最新のVVVFインバータ制御を当初から採用した215編成は200系と呼ばれる。

発展期																			
1980年	1979年	1978年	1977年	1974年	1973年	1970年	1965年	1964年	1962年	1961年	1960年								
● 知多新線が全線開通	● 豊田線が開業し、名古屋市営地下鉄鶴舞線と相互直通運転を開始	● 瀬戸線地下区間が開業し、栄町駅に乗り入れ	● 6000系が通勤型車両として初めて「ブルーリボン賞」を受賞	● 「高速」に種別変更	● 座席指定特急を「特急」、自由席特急を「高速」に種別変更	● 知多新線が富貴〜上野間駅間で開業	● 急行「たかやま」を特急「北アルプス」に格上げ、富山地方鉄道立山駅への直通運転スタート	● 名鉄式ATS(自動列車停止装置)導入	● キハ8000系投入。高高山本線直通準急「たかやま」運行開始	● 一宮線廃止	● 博物館「明治村」開村	● 鏡島線廃止、岩倉支線廃止	● 岡崎市内線、福岡線廃止	● モノレール線が犬山遊園〜動物園駅間で開業	● 7000系「パノラマカー」デビュー、名古屋本線で時速110キロ運転開始	● 安城支線廃止	● 高富線、平坂支線廃止	● 遊園地「犬山ラインパーク」(現日本モンキーパーク) 同年営業開始	● 1960年

清須市にある清洲城 その城下町が須ヶ口の謎

須ヶ口

名古屋本線と分歧する 津島線の重要な起点

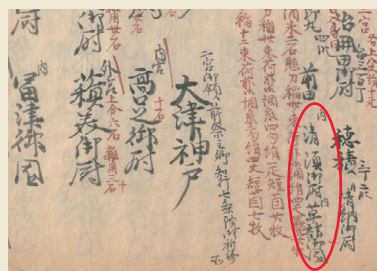
津島線は須ヶ口駅で名古屋本線から分歧する。同駅は、1914（大正3）年に津島線の駅として開業した。この頃はまだ名古屋と岐阜を結ぶ路線は通っていない。1928（昭和3）年、名古屋市内の押切町駅（廃止）から須ヶ口駅を経て、新一宮（現名鉄一宮）駅までが開通し、木曾川橋経由で名古屋と岐阜が結ばれた。

須ヶ口は、清洲の城下町の南の入口を指す地名だ。名称は「清洲」城に由来し、「清須」市に所在している。このように「キヨス」には、「清洲」「清須」の表記が混在する。

「キヨス」という地名の最も古い記録は、14世紀中頃の伊勢神宮領を記した『神鳳鈔』の「清須御厨きよすみくりや」だといわれる。御厨とは、神社に納める供物・神饌を調達する領地の意味だ。江戸時代半ばから「清洲」の表記が増え始め、明治時代に清

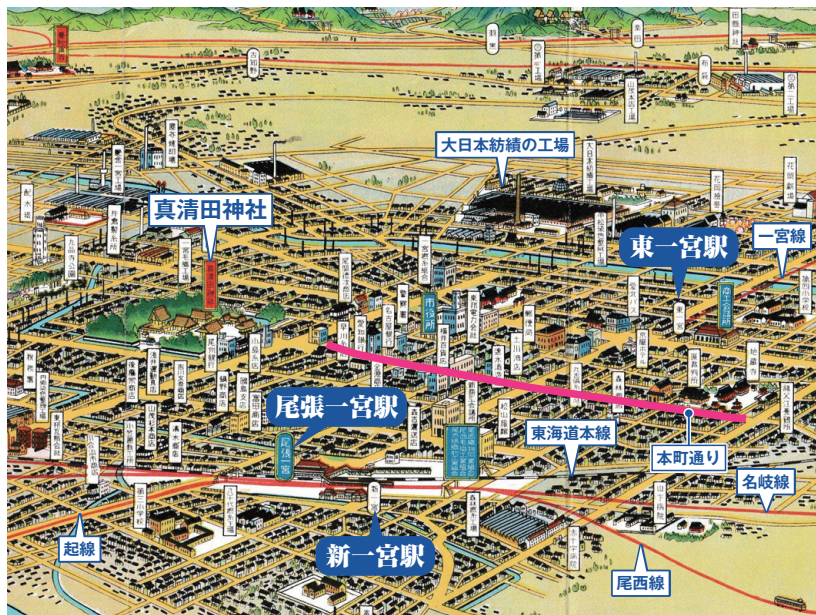
洲村が成立してからは清洲と書くのが一般的になった。須ヶ口が、「洲ヶ口」でないのは中世の表記が由来とされるためだ。

📷 神鳳鈔に登場する清須御厨



塙保己一が編纂した『群書類従』に収められているが、原本は失われている。 国立国会図書館所蔵

📍 1937 (昭和12) 年の一宮市



一宮では18世紀から周辺で綿作が盛んとなり、明治時代以降は数多くの繊維工場が建設された。当時の町の中心は、真清田神社の門前の本町通りだった(現在、一部はアーケード商店街になっている)。ここは東海道本線の尾張一宮駅にも東一宮駅にも近く、汽車を利用する人は尾張一宮駅へ、電車を利用する人は東一宮駅へ向かっていた。名岐線が全通して新一宮(現名鉄一宮)駅ができると、電車利用者も新一宮駅を利用するようになった。

一宮市鳥瞰図(吉田初三郎作、1937年、名古屋レール・アーカイブス所蔵)

column

喫茶店のモーニングは一宮が発祥？

喫茶店で朝の時間帯に、コーヒーにトースト、ゆで卵、サラダなどが付く「モーニング」は、一宮市が発祥といわれる。繊維産業の景気がよかった昭和30年代前半、昼夜を問わず喫茶店を訪れる繊維業の関係者に朝のサービスとして、コーヒーにゆで卵、ピーナッツが出されたのがはじまりのようだ。なお、一宮市の人口1万人あたりの喫茶店数は約20軒で、全国でもトップクラスだ。



ホットコーヒーを注文すると、トーストやサラダなどのセットが出てくる。

📷 岐阜市内線を走った車両

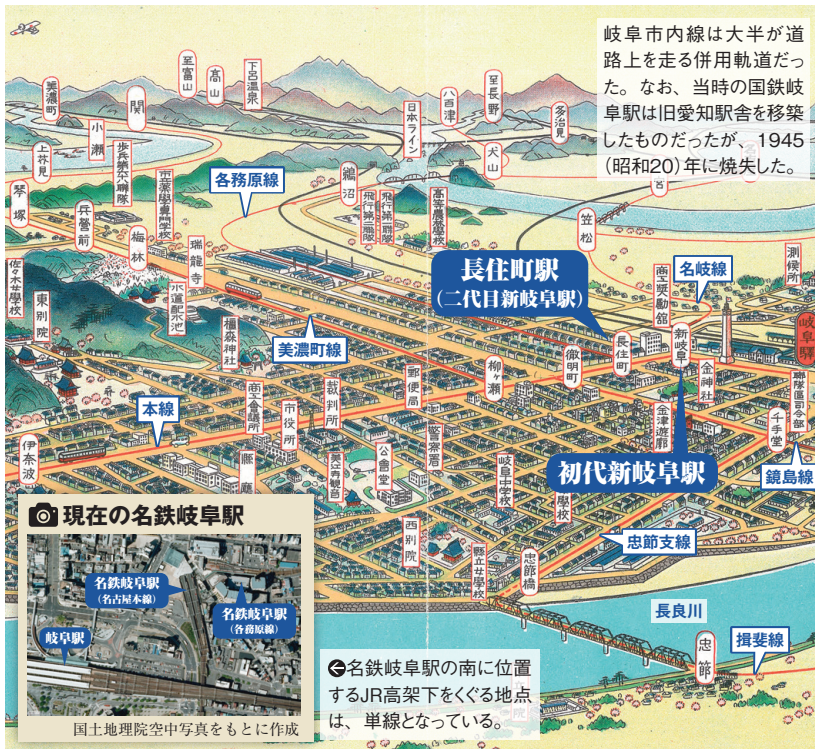


©ButuCC 2021

JR 岐阜駅の北口広場に、揖斐線への直通列車に使用されていたモ510形車両が静態保存されている。この広場は岐阜市内線の駅前停留場が設置される予定だった場所だ。

た（決議は結局塩漬けとなる）。利用者は次第に減りはじめ、名鉄は、岐阜郊外から岐阜市内への直通運転の実施や新型車両の投入など、対策を行い存続を目指したが、走行環境改善に対する地元自治体および警察の協力は得られなかった。2005（平成17）年4月、岐阜市内線が廃止され、岐阜および名鉄から路面電車は消え去った。

📍 1936（昭和11）年頃の岐阜市内線



岐阜市鳥瞰図（個人所蔵）



国土地理院空中写真をもとに作成

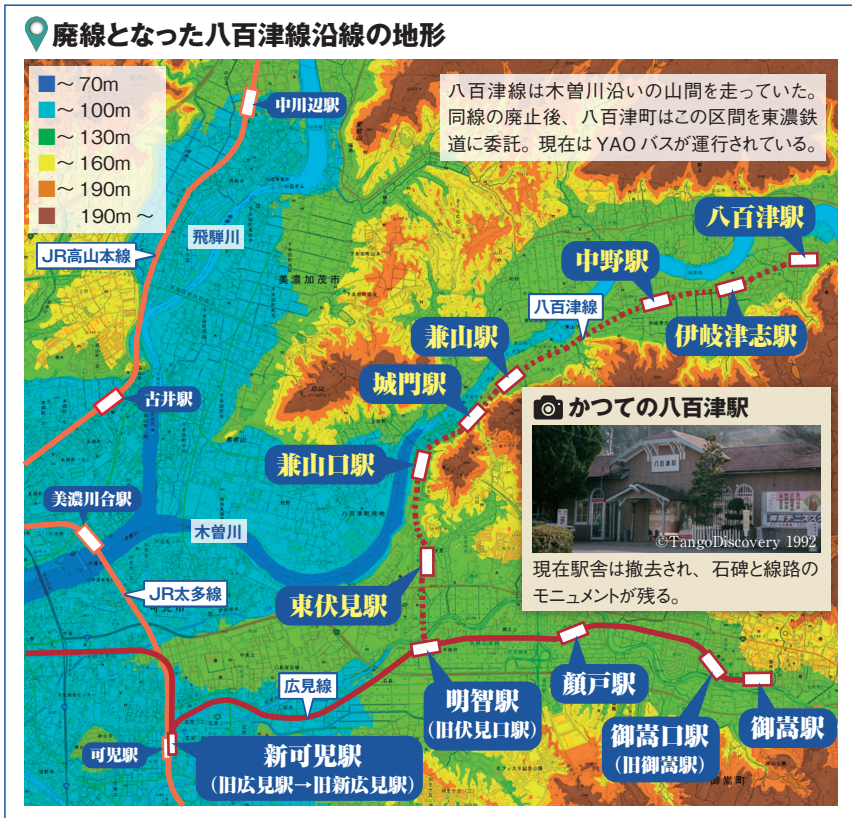
column

犬山を拠点とした「大正広重」

「大正広重」と呼ばれた鳥獣図絵師・吉田初三郎は、犬山と関わりが深い。関東大震災で東京の自宅などを失った初三郎に、名古屋鉄道の常務(後に社長)・上遠野富之助が声をかける。招きに応じ、犬山へ拠点を移した初三郎は、蘇江画室というアトリエを開設し、数々の作品を制作した。犬山の観光開発にも関わり、桃太郎伝説を全国に喧伝。犬山市にある桃太郎神社の創建にも尽力した。



犬山市の桃太郎神社。桃型の鳥居をはじめ、市井の造形作家・浅野祥雲による独特な雰囲気。桃太郎や鬼の像があることで知られる。



column

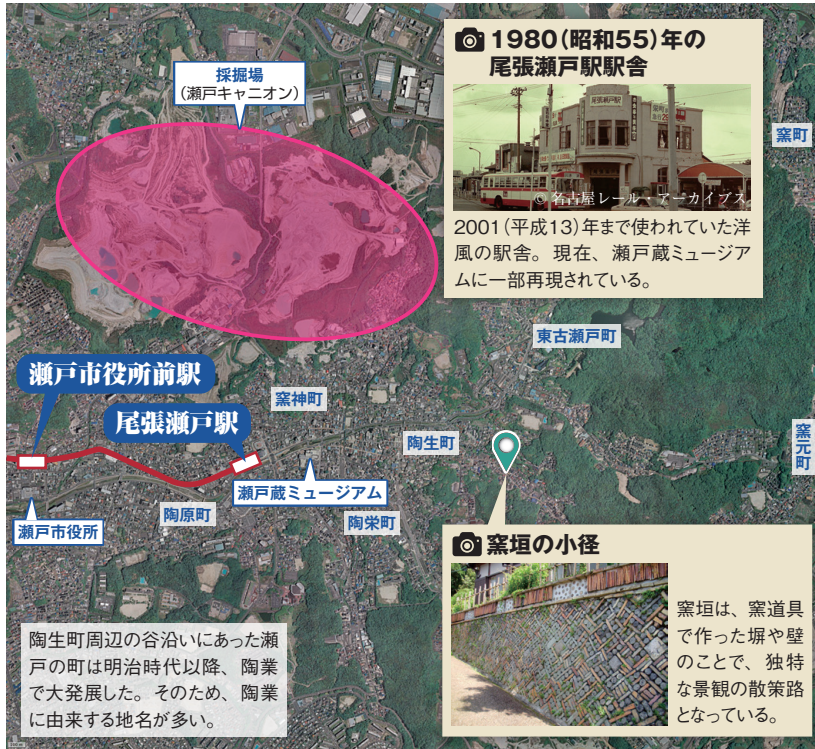
日本初の大ダムをつくった貨物線

八百津線の八百津駅跡から東へ6キロほどのところに、戦後の大ダムの先駆けとなった丸山ダムがある。1951(昭和26)年に竣工し、日本初の100メートル級の大ダムといわれた。木曾川の水量調節や発電、利水などに使われている。このダムの工事事用資材を運ぶための貨物用路線が、八百津駅から丸山ダム近くまで走っていた。現在も鉄道用トンネルや線路跡が残っている。



加茂郡八百津町と可児郡御嵩町に跨がる丸山ダム。現在、かさ上げによる再開発事業が進んでいる。

📍 尾張瀬戸駅と「瀬戸キャニオン」

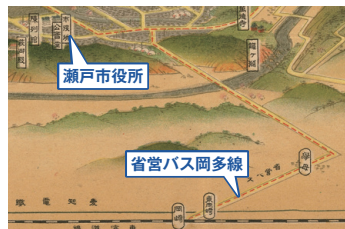


国土地理院空中写真をもとに作成

column

日本初の国営バスが走った瀬戸

明治時代、瀬戸には陶磁器の輸送を目的とした鉄道を敷設する計画が複数あった。しかし、建設がなかなか進まず、代替として鉄道省が路線バスを走らせることになった。これが1930(昭和5)年に開業し、日本初の国営バスとなった多治見と岡崎を結ぶ省営バス岡多線だ。この路線は後に国鉄バス、JR東海バスに引き継がれたが、2021(令和3)年に消滅した。



1976(昭和51)年に、このルートに国鉄岡多線が開業した。

瀬戸電鉄沿線御案内 作者不明、個人所蔵



国土地理院標準地図をもとに作成

column

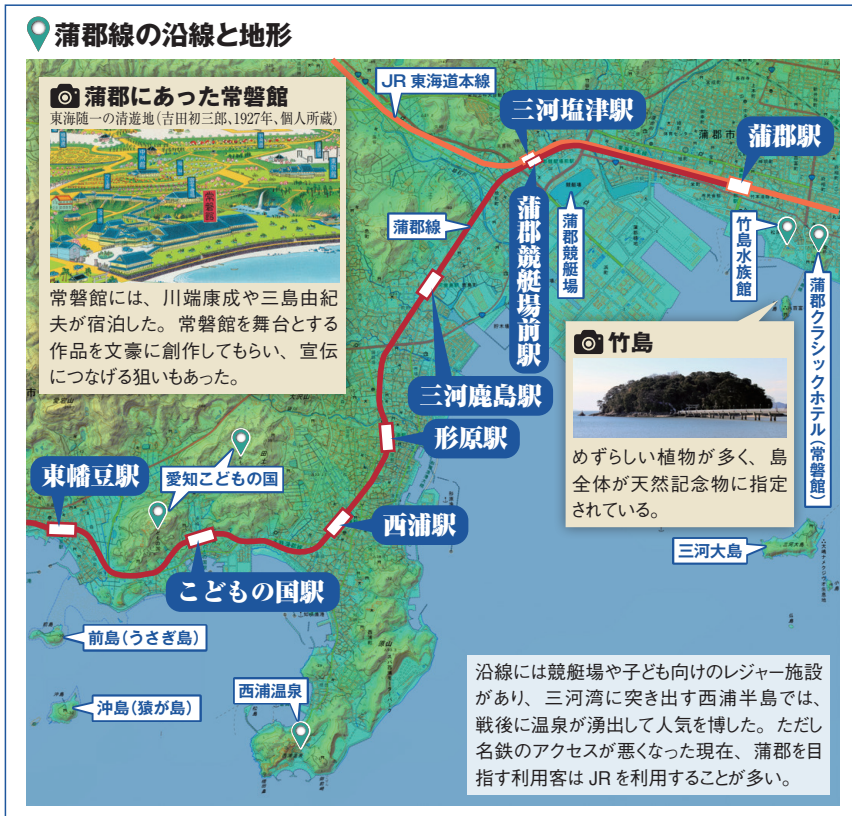
「浮く」リニアモーターカー

1991(平成3)～2004(平成16)年まで、築港線に沿ってHSST(ハイスピードサーフェストラנסポート)の実験路線が敷設されていた。HSSTとは日本で開発された磁気浮上方式リニアモーターカーのこと。名鉄も開発に携わっていた。2005(平成17)年に開催された国際博覧会「愛・地球博」をきっかけに、愛知高速交通東部丘陵線(リニモ)として運行されている。

©名古屋レール・アーカイブス



HSSTの実験の様子。公共交通機関として実用化するために走行実験が行われた。



国土地理院標高図をもとに作成

西尾・蒲郡市の支援で 赤字を出しつつも存続

1980年代に入ると観光需要が多様化し、蒲郡観光は衰退。80年代までに水中翼船などは消え、90年代に三河湾海上動物公園は閉園し、2000年代に蒲郡線への特急も廃止された。

利用者の減少で、西尾線の一部と蒲郡線の全線にあたる西尾蒲郡駅間は、1997(平成9)年から廃止が検討されている。毎年赤字を計上しているため、現在は西尾市と蒲郡市からの支援金で存続している状況だ。なお、2020(令和2)年、名鉄、西尾市、蒲郡市の三者が合意し、2025(令和7)年度までの存続が決定している。

名鉄急行列車停車駅

名鉄の全275駅のうち、準急行以上の列車が停車する115駅の特徴とそれらの駅周辺地域の特色を、駅舎・ホームの構造、1日あたりの利用者数などのデータとともに紹介します。

※表内の「1日あたりの利用者数」は、2019年度と2020年度のデータです。

※豊橋駅のみ「1日あたりの利用者数」のデータがないため、「乗降者人数」(2019年度)を掲載しています。

※表内の「停車」という項目において、「ミ」はミュースカイ、「快特」は快速特急、「快急」は快速急行、「準急」は準急行です。その他、すべての駅に普通列車が停車します。

いな
伊奈 NH 02

名古屋本線の普通・準急列車は、豊橋駅に乗り入れていないため当駅で折り返す。1927(昭和2)年から1954(昭和29)年まで、当駅と豊川鉄道(現JR飯田線)の小坂井駅を結ぶ小坂井支線が通っていた。

開業	1927(昭和2)年6月1日
所在地	豊川市伊奈町南山新田292番地1
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅(橋上駅)/2面3線
1日あたりの利用者数	3354人(2019)、2591人(2020)
停車	急行 準急

とよはし
豊橋 NH 01

名鉄最東端の駅で、実質はJRに間借りしている。豊橋鉄道渥美線の新豊橋駅、市内線の駅前停留場が隣接しており、乗り換えが可能。周辺は吉田(豊橋)城の城下町で東三河の中心都市として発展した。

開業	1927(昭和2)年6月1日
所在地	愛知県豊橋市花田町字西宿0番地
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅(橋上駅)/1面1線
1日あたりの乗降者人数	1万7626人(2019)
停車	快特 特急 急行

もとじゆく
本宿 NH 08

かつての駅舎は、1934(昭和9)年にできた蒲郡ホテルを模しており、銅板葺きの八角屋根の塔屋を擁する個性的な建物だった。1992(平成4)年、国道1号線の拡幅による駅の高架化に伴い、新しく建て替えられた。

開業	1926(大正15)年4月1日
所在地	岡崎市本宿町字一里山30番地4
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	高架駅/2面4線
1日あたりの利用者数	6435人(2019)、4593人(2020)
停車	急行 準急

こう
国府 NH 04

豊川線の起点。豊川市内の鉄道駅のなかで最も利用客が多い。過去には正月に豊川稲荷への参詣客を輸送する列車が、名古屋本線から豊川線に直通していたが、2006(平成18)年に廃止された。

開業	1926(大正15)年4月1日
所在地	豊川市久保町葉善寺35番地
接続路線	名古屋本線/豊川線
駅構造/ホーム	地上駅(橋上駅)/3面6線
1日あたりの利用者数	1万321人(2019)、7795人(2020)
停車	特急 急行 準急

みあい
美合 NH 11

周辺には工場が集まり、1982(昭和57)年まで工場輸送のための貨物側線が通っていた。かつての日清紡美合工場があった場所は、現在イオンタウンなどになっている。同工場には当駅から貨物の引込線が敷かれていた。

開業	1926(大正15)年4月1日
所在地	岡崎市美合町字一ノ久保1番地64
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅(橋上駅)/2面4線
1日あたりの利用者数	7441人(2019)、5671人(2020)
停車	急行 準急

ふじかわ
藤川 NH 10

愛知産業大学とその付属中学・高校、岡崎東高校などの最寄り駅で、学生の利用が多い。普段は授業のある昼間に準急は停車しないが、テスト期間中などは下校時間に合わせて昼間に急行列車が臨時停車する。

開業	1926(大正15)年4月1日
所在地	岡崎市藤川町字松本182番地
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅/2面2線
1日あたりの利用者数	6576人(2019)、5109人(2020)
停車	準急

すかくち

須ヶ口

NH
42

名古屋本線と津島線の接続駅。須ヶ口は清洲城下の南の入口を指す地名。2009(平成21)年9月、東海豪雨により、新川が決壊し、当駅と新川検車区が水没したため、いくつかの車両が使用不能となった。

開業	1914(大正3)年1月23日
所在地	清須市須ヶ口1725番地
接続路線	名古屋本線/津島線
駅構造/ホーム	橋上駅/2面4線
1日あたりの利用者数	7544人(2019)、6149人(2020)
停車	快急 急行 準急

おおざと

大里

NH
45

開業当初の駅名は大佐土(おおざと)で、1943(昭和18)年に現駅名に改称された。上下両ホームと改札口は別々に分かれているが、橋上連絡通路で行き来が可能。駅舎の上部はマンションとなっている。

開業	1928(昭和3)年2月3日
所在地	福沢市奥田町三十番神7133番地1
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅/2面2線
1日あたりの利用者数	3881人(2019)、3158人(2020)
停車	準急

めいてついちのみや

名鉄一宮

NH
50

名古屋本線と尾西線との接続駅。2005(平成17)年に新一宮駅から現駅名に改称した。並行するJR東海道本線の尾張一宮駅と乗り入れてターミナルを形成しており、両駅を合わせて一宮駅や一宮総合駅とも呼ばれる。

開業	1900(明治33)年1月24日
所在地	一宮市新生一丁目1番1号
接続路線	名古屋本線/尾西線
駅構造/ホーム	高架駅/2面4線
1日あたりの利用者数	3万5867人(2019)、2万7760人(2020)
停車	ミ 快特 特急 快急 急行 準急

かさまつ

笠松

NH
56

名古屋本線と竹鼻線の接続駅で竹鼻線の起点。笠松競馬場への来場客専用の臨時切符売り場があるが、来場客低迷のため現在はほぼ使われていない。東口には、旧変電所を流用したレンガ造りのレトロな駅舎がある。

開業	1935(昭和10)年4月29日
所在地	羽島郡笠松町西金池町1番地
接続路線	名古屋本線/竹鼻線
駅構造/ホーム	地上駅/2面3線
1日あたりの利用者数	8726人(2019)、6484人(2020)
停車	快特 特急 快急 急行 準急

ふたつり

二ツ杵

NH
40

隣駅の西枇杷島に待避設備があったが、構内が狭く4両編成しか待避できないため、1987(昭和62)年に当駅にも設置された。従業員寮が入っていた駅ビルは、現在解体されてマンションになっている。

開業	1942(昭和17)年2月1日
所在地	清須市西枇杷島町芳野二丁目59番地
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅/2面4線
1日あたりの利用者数	3265人(2019)、2663人(2020)
停車	準急

しんきよす

新清洲

NH
44

清洲城への最寄り駅。開業当初の駅名は西清洲駅だった。駅の東西へは地下道で行き来し、改札も地下にある。近くの日吉神社は申(さる)の神社として知られ、豊臣秀吉の幼名・日吉丸はこの神社に由来するという。

開業	1928(昭和3)年2月3日
所在地	清須市新清洲一丁目1番地1
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅/2面4線
1日あたりの利用者数	8331人(2019)、6702人(2020)
停車	快急 急行 準急

こうのみや

国府宮

NH
47

国府宮として知られる尾張大國霊神社の最寄り駅。この神社で旧正月に行われる「儺追神事」は奈良時代から続く神事で、はだか祭として有名。はだか祭の際は、ホーム北側のスロープが臨時改札として利用される。

開業	1924(大正13)年2月15日
所在地	福沢市松下一丁目1番1号
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅/2面4線
1日あたりの利用者数	2万2767人(2019)、1万7653人(2020)
停車	ミ 快特 特急 快急 急行 準急

しんきそがわ

新木曾川

NH
53

1965(昭和40)年の火災で、開業以来の駅舎が全焼。2階より上がアパートの4階建ての駅舎となったが、2016(平成28)年に現在の駅舎に建て替えられた。同じ木曾川町黒田の黒田駅とは1キロ弱しか離れていない。

開業	1935(昭和10)年4月29日
所在地	一宮市木曾川町黒田三ノ通り203番地
接続路線	名古屋本線
駅構造/ホーム	地上駅/2面4線
1日あたりの利用者数	6411人(2019)、5137人(2020)
停車	快特 特急 快急 急行 準急